

最終評価報告書（素案）へのご意見について  
【次期計画に向けてのご意見として検討】

2023/2/14.15	令和4年度	参考資料4
佐世保市歯・口腔の健康づくり専門部会（子ども期・成人期）		

委員名	ご意見	関連する ライフステージ
里見委員	障がい者のかかりつけの有無で勘案整理表で確認をしているが、回答が曖昧なことが多いように感じる。過去に行っていた場合や不定期で行ったことがあるという方も「有り」になっている。過去のかかりつけでもしばらく行っていないと再構築しないといけないことになり、受診困難になってしまう。 その他に、障がい者に慣れていない先生方もいるため（受診者からすると）相性が合わないとなり、疎遠となることも多い。	障がい者
末川委員	学齢期は歯科健診などの取組は行われているが、成人で職場での健診の一つとして口腔に関することを絡ませていけないか。例えば、問診で○項目以上該当があれば、歯科受診を促すようにしてはどうか。高齢期施設においても健診やアンケートの強めの啓発ができないか。	成人期・高齢期
正林委員	各年代における最も重要な点は定期的な歯科受診、施設等においては家族や施設職員への口腔ケア研修会等の知識向上、理解であるため、引き続き定期健診の受診啓蒙や研修会などの充実が必要。	成人期・高齢期 障がい者

委員名	ご意見	関連する ライフステージ
太田委員	各データに母数を併記し、母数が少ない調査項目に関しては母数を上げるよう次期計画に反映してみてもどうか。（期間を決めて、歯科医師会会員の患者データで集計することも調査としていいのでは）	成人期・高齢期
	20歳代の指標項目（未処置・歯肉炎症）のデータに関して、専門学校・短大・大学での歯科検診や、事業所向けの歯科検診補助制度を組んでみてどうか。	成人期
	40歳代と60歳代の指標項目の改善のためには20歳代からのかかりつけ歯科医での治療と予防が必要。そのためにも成人歯科検診や事業所検診などから意識改革する必要がある。働いている方々が健診に行きやすい環境を作る方法を市としても考える必要がある。	成人期
	40歳、60歳では特定健診として、全身疾患のデータがあると思うので、医科歯科連携データとして考察してみてもどうか。	成人期

委員名	ご意見	関連する ライフステージ
太田委員	<p>障がい者のかかりつけ歯科医を持つ割合のデータは実態に則しているように感じられない。障がい者手帳を持つ方を把握しているのであれば、データを取る対象を変更し実態にあったデータを取ることが可能ではないか。（松永委員からも同様の意見有）</p> <p>介護老人施設と障がい者（児）の2つの入所施設に対する指標に関して、評価が「変わらない」となったことに関して次期計画では対策を立ててほしい。施設内での歯科検診や口腔ケアの重要性を周知するために施設協力歯科医への協力をお願いするとよい結果になるかもしれない。</p>	<p>障がい者</p> <p>高齢期 障がい者（児）</p>
松永委員	<p>3歳児でむし歯のない者の割合の増加を達成させるために成人歯科健診と同様に子どもの歯科健診もしてほしい。</p> <p>長崎市が行っている2歳児健診等のハイリスク児への事業が必要ではないか。</p>	<p>乳幼児期</p> <p>乳幼児期</p>

委員名	ご意見	関連する ライフステージ
松永委員	<p>フッ化物洗口実施者100%を目指してほしい。市の重点施策の「子どものフッ化物洗口の推進」の目標をほぼ達成している中、次期計画にも重点施策に入れるかの検討が必要。引き続き入れるのであれば、「施設数」ではなく「実施者率」にしてほしい。</p>	乳幼児期・学齢期
	<p>学校歯科健診の事後措置者率はわかりますか。現在、70%前後（事後措置者率？）で安定している状態なので今後向上させるために次期計画では検診後の受診率を評価に入れ、それを向上させるなどの対策を取ってほしい。</p>	学齢期